夏秋どり雨よけパセリーの栽培法

（園試・高冷地開発センター）

1．背景とねらい

県北部の野菜生産は，夏期冷涼な気象条件を生かした雨よけほうれんそうを中心に産地形成がなされている。しかし，雨よけほうれんそうの栽培年限が長期化するにともない連作障害等の発生が問題となってきており，産地を長期に維持，発展させるためには雨よけ補完品目の開発が求められている。その１つとして，夏秋どり雨よけパセリーについて検討した。

パセリーは冷涼な気候を好む作物であり，主産地である暖地が高温のため良品を生産できない時期の作型は市場性も高い。また，雨よけほうれんそうとの輪作やレタス育苗跡地ハウス等の利用も可能である。定植後の管理や収穫，調整作業も比較的簡単であり，高齢者でも容易に栽培，出荷ができる。

そこで，８月から11月どり作型について品種特性，栽培技術等について得られた成果を指導上の参考に供する。

2．技術の内容

1）は種期は 3月下旬から 4月上旬までとし， 70日前後育苗し定植する。 収穫は 8月上，中旬から11月上旬までとなる。

2）品種は「瀬戸パラマウント」，「けさお２号」とする。（表１，２）

3）栽培法

(1)育苗はハウス内育苗とする。育苗箱に条播し，１葉期にビニールポットに仮植，４葉期に定植する。

(2)栽培は雨よけ栽培とする。雨よけ栽培により，生育が促進され，収穫期間も長くなる。また軟腐病予防にも効果がある。

(3)栽植様式は条間 45cm，株間 24cm，２条植えのマルチ栽培とする。

(9224Bﾏﾙﾁﾌｨﾙﾑ使用， 616株/a)

(4)収穫は残存外葉数10枚前後にして葉柄のつけ根からとする。（表３）

4）適応地域　県北部

3．指導上の留意事項

1）高温期には収穫や側芽整理によってできた傷口が誘因となり軟腐病が多発する。そこで，連作を避け，排水不良ハウスでは高畦栽培にし，灌水の際には株元に土壌が飛散しないようにする。また，収穫前後の灌水は避ける。

2）パセリーは収穫期間が長いので，長期間連続して肥効をもたせるため緩効性肥料を施用する。施肥量は窒素2.5kg/a，リン酸2.2kg/a，カリ2.4kg/a程度とする。

3）側芽を放任しておくと主枝の生育が抑制され収穫葉の品質が低下するので，収穫時には側芽を摘み取る。

4）夏期でも冷涼な地域では降温のための遮光の必要はない。

5）セルトレーやペーパーポット等を利用した育苗も可能である。

4．試験成績の概要

表1　平成3年の定植苗の生育量（高冷地開発センター）

品種名	栽培条件	株広 (cm)	葉数 (枚)	側芽数 (個/株)	最大葉 (cm) 葉長	葉身長	葉身幅
瀬戸ﾊﾟﾗﾏｳﾝﾄ	雨よけ遮光あり	33.1	13.3	2.9	22.2	12.1	8.9
瀬戸ﾊﾟﾗﾏｳﾝﾄ	雨よけ遮光なし	33.0	12.8	2.1	22.9	13.6	9.9
瀬戸ﾊﾟﾗﾏｳﾝﾄ	露地	30.1	11.0	1.9	18.7	11.1	8.9
けさお	雨よけ遮光あり	31.0	13.4	0.7	24.8	12.8	9.2
ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾊﾟｾﾘｰ	露地	32.3	11.5	1.9	21.0	11.8	8.6

・定植50日後調査

【栽培概要】 は種期（定植期）：平成 3年 3月30日（ 6月12日）

・「けさお」は選抜をうけ，平成 4年から「けさお２号」として販売されている。

表2　平成4年の定植苗の生育量（高冷地開発センター）

品種名	栽培条件	株広 (cm)	葉数 (枚)	側芽数 (個/株)	最大葉 (cm) 葉長	葉身長	葉身幅
瀬戸ﾊﾟﾗﾏｳﾝﾄ	雨よけ遮光あり	35.7	11.3	1.4	28.1	16.3	8.3
けさお２号	雨よけ遮光あり	40.0	11.3	1.0	28.3	15.3	7.8

・定植52日後調査

【栽培概要】 は種期（定植期）：平成 4年 4月16日（ 6月23日）

表3　仕立葉数別収量（野田村明内）　(kg/a)

処理内容	8月	9月	10月	11月	12月	合計
８葉仕立	33.7	24.9	12.0	2.7	2.4	75.7
１０葉仕立	39.9	38.7	25.8	5.4	2.6	112.4
１２葉仕立	39.5	34.1	18.8	4.9	4.3	101.6

・瀬戸パラマウント　雨よけ栽培

【栽培概要】 は種期（定植期）：平成 3年 4月12日（ 6月20日）